

## 大宮氷川神社の古代の祭神がなぜ、1座（神）と推測できるのか

平安時代の資料である『延喜式』神名帳には、その当時の中央政府に「官社」と認定されていた2861の神社名が記載され、そこには3132の神がいたことが知られています。つまり、一つの神社に一つの神を祀っていた神社だけではなく、複数の神が祀られていた神社も存在したことが判明します。

『延喜式』神名帳では、一つの神社で二座の神を祀っている場合は「■■神社 二座」、三座の神を祀っていれば「◇◇神社 三座」と表記されますが、単数の場合には単に「△△神社」という表記をしており、大宮氷川神社の場合も武蔵国足立郡の項に「氷川神社」としか書かれていません（但し、この場合の武蔵国足立郡の「氷川神社」が現在の大宮氷川神社なのかについては、なかなか結論は出ませんが、ここでは大宮氷川神社を指すと考えておきます）。従って、古代の『延喜式』神名帳に記載された武蔵国足立郡の氷川神社の祭神は、当時は1座しかなかったと推測できるのです。

『延喜式』神名帳（平安時代）	
武蔵国四十四座	氷川神社（名神大、月次新嘗）
足立郡四座	調神社 多氣比売神社
信濃国四十四座	
諏方郡二座	南方刀美神社（二座）（名神大）
大和国二百八十六座	
高市郡五十四座	
飛鳥坐神社四座	（並名神大、月次相嘗新嘗）

なお、各地の神社入口で、「延喜式内社」と彫られた石柱を目にします。これはその神社が『延喜式』神名帳に記載されていることを主張していることによるものです。右に示した「調神社」という社名も、『延喜式』神名帳に掲載されています。



調神社（浦和区岸町）